

第 69 回地域農林経済学会大会のご案内

2019年6月15日

地域農林経済学会

第 69 回地域農林経済学会大会を下記の要領で開催いたします。会員の皆様はもとより、非会員の皆様もぜひご参加ください。

1. 期 日 2019年10月26日(土)～10月27日(日)

(編集委員会・理事会は10/25(金)に開催されます。)

2. 日程および会場

2-1. 開催地 愛知大学(豊橋キャンパス)

住 所 〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町 1-1

連絡先 岩崎正弥 TEL: 0532-47-4111 E-mail: iwasaki@aichi-u.ac.jp

藤井吉隆 TEL: 0532-47-4111 E-mail: fujiiy@aichi-u.ac.jp

【第1日】 10月26日(土) 個別報告・大会講演・総会

○個別報告 [9:00～13:00] (6号館教室) (受付開始 8:30)

○会長挨拶 [14:00～14:15]

(記念会館小講堂)

○大会講演 [14:15～16:30]

(記念会館小講堂)

○総会 [16:45～17:45]

(記念会館小講堂)

○懇親会 [18:00～20:00]

(キャンパス内食堂 カフェテリア・ベル)

【第2日】 10月27日(日) 個別報告・特別セッション

○個別報告 [9:00～10:30] (6号館教室)

○国際ミニシンポジウム [10:30～12:30] (6号館教室)

○特別セッション [10:30～12:30] (6号館教室)

○地域シンポジウム [13:30～16:00] (記念会館小講堂)

○個別報告 [16:00～17:00] (6号館教室)

※終了時刻は変更することがあります

【その他】 10月25日(金)

編集委員会 [16:45～17:45] (研究館1階第1会議室)

理事会 [18:00～20:00] (研究館1階第1会議室)

10月26日(土)

個別報告優秀賞審査委員会 [12:30～13:20] (6号館1F 611教室)

同打ち合わせ会議 [8:35~8:55] (6号館 1F 611 教室)
大会講演打合せ [11:30~12:30] (記念会館 1F ガーデンサロン)

(注)大会会場の地図・交通案内等は、本文末尾をご参照ください。

2-3. 参加費用等

- ・大会参加費：普通会员 3,000 円，非会員 4,000 円，学生会員・学生非会員 1,000 円
- ・懇親会費：普通会员 5,000 円，学生会員 3,000 円

2-4. 大会・懇親会・個別報告等の申し込み，各問合せ先に関して

以下の web サイトで，各種受付を行います。期日までに申し込みをお願いいたします。

大会・懇親会参加及び 10/27 (日) のお弁当の申し込み (締め切り日時：10/11 (金) 23:00)

URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/bd23a4e788440>

個別報告申し込みおよび要旨提出 (締め切り日時：8/13 (火) 23:00)

URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/331d723232976>

個別報告で用いるプレゼンファイルの提出 (締め切り日時：10/21 (月) 23:00)

URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/1d394ab732977>

個別報告「大会前原稿」の提出 (締め切り日時：10/21 (月) 23:00)

URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>

※詳細・各パスワードは，【別紙】を参照ください。

大会期間中の保育室利用の申し込み (締め切り：9/6 (金))

申し込み先：開催校事務局 山口治子 (yamaguti@aichi-u.ac.jp)

国際ミニシンポに関する問い合わせ先

jito@kais.kyoto-u.ac.jp 伊藤順一 (京都大学) (国際担当理事)

特別セッションに関する問い合わせ先

hisashi@okayama-u.ac.jp 駄田井久 (岡山大学) (企画担当理事)

個別報告申し込み，プレゼン用ファイル提出，個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

arfe-plan@freeml.com 地域農林経済学会企画担当理事

個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

editors@a-rafe.org 地域農林経済学会常任編集委員会

3. 大会講演

「次世代に向けての地域農林経済学の再検討

—地域農林業の現場の新たな捉え方—

10月26日(土) [14:15~16:30]

「学究者と実際家との交流・切磋琢磨」「現場主義」の下で、地域や地域経済(メゾレベル)に分析の焦点を合わせる地域農林業研究の学会として、地域農林経済学会は発展してきた^(注)。前身の関西農業経済学会を含めて70回目の記念大会が、来年度に開催される。

地域農林業研究の現場の捉え方（現場をどう理解し、どう位置付けるか）について討議した 50 回記念大会。地域農林業（現場）の先端の動きを捉えるための地域農林経済学のあり方について討議した 60 回記念大会。このように記念大会において恒例となっている、地域農林業の現場の捉え方の検討を、来年度の 70 回記念大会（シンポジウム）と本年度大会（講演）においても行いたい。今回は令和元年を迎え、新たな時代を担う若手研究者に向けての、地域農林経済学の方法論の再検討になる。

この地域農林業の現場の新たな捉え方についての検討は、67・68 回大会における実験手法の有用性についての討論から、始まっていると位置付ける。

また講演 2（山下）は、68 回大会・特別セッション「若手研究者にとって魅力的な地域農林業研究とは何か？」において指摘された、若手が挑む新たな研究方法・領域について評価されにくいという不安を、若手研究者自身が解きほぐすものである。農家行動のシミュレーション手法が、「地域農林業の現場の捉え方」として有用であるとともに、「学者と実際家との交流・切磋琢磨」を深化させることが強調される。

さらに講演 1（秋津）は、同じく特別セッションで指摘された、最近、質的研究が評価されにくいという不安を、副会長が解きほぐそうとするもので、質的・社会実装型研究における現場の理解・位置付けの方法・フレームの解説から、同研究が投稿論文として受理されるまでのプロセスや要件に至るまで、具体的な説明がなされる。

来年度は、以上の検討を踏まえて、「強い仮説（演繹法）と弱い仮説（帰納法）の共存」^(註)という地域農林経済学の特質をめぐる報告の後、若手研究者を中心にした総合討論を行いたい。

注：河村能夫「地域農林経済研究は何を目指してきたか」68 回大会・特別セッション「若手研究者にとって魅力的な地域農林業研究とは何か？」を参考にしている。

司会 | 中村貴子（京都府立大学大学院生命環境科学研究科）

企画解題 | 辻村英之（京都大学大学院農学研究科）

講演 1 | 地域農林業研究に質的研究を取り戻す—質的研究論文の復権とその書き方—

秋津元輝（京都大学大学院農学研究科）

演題 2 | 農をとりまく異なる分野との対話—シミュレーション手法を用いた研究—

山下良平（石川県立大学生物資源環境学部）

4. 国際ミニシンポジウム・特別セッション

5-1. 国際ミニシンポジウム

10 月 27 日（日）[10:30~12:30] October 27, 2019, 10:30~12:30

本大会では、以下のテーマで、国際ミニシンポジウムを開催いたします。

A comparative study of land use policies in Japan and China

It is generally believed that comparative advantage in crop farming depends largely on factor endowments represented by the land-labor ratio in production and the opportunity cost of farm labor measured by the wage rate of non-farm sector. Since agriculture in Asian countries is characterized by a strong majority of small individual farms, a rise in the wage rate associated with economic growth under the meager factor endowments for crop production would result in the loss of international competitiveness or comparative disadvantage in agriculture. This naturally drains scarce resources from agriculture; the labor force declines, which is followed by a decrease in land use intensity, and potentially an increase in farmland abandonment. Nevertheless, it is worth the effort for the Asian populous countries to maintain food production capacity at a certain level in order to help ensure food security in the world. Central to this problem is the development of land rental markets and consolidation of scattered plots

of farmland. Although a growing body of literature has addressed these issues, there yet remains much to be learned about the challenges and future evolution of efficient farmland use. In this symposium, we make a comparative study of agricultural land use and the relevant policies in Japan and China, which has important policy implications not only for these two countries but also for the emerging economies in Asia. The hosting body, the Association for Regional Agricultural and Forestry Economics, provides fellow members with an opportunity to give some thoughts to this topic of academic and practical importance.

Moderators:

Keshav Lall Maharjan (Hiroshima University)

Tomoko Kinugasa (Kobe University)

Discussion opener:

Junichi Ito (Kyoto University)

Speakers:

Daisuke Takahashi (Takushoku University)

Hisatoshi Hoken (Kwansei Gakuin University)

なお、質疑応答では日本語でも行うことができます。

国際ミニシンポジウムに関する連絡先：jito@kais.kyoto-u.ac.jp 伊藤順一（京都大学）

5-2. 特別セッション

10月27日（日）[10:30~12:30]

本大会では、特別セッションを募集いたします。特定のテーマや研究手法に関して研究者間の議論を行う事を目的としたものです。特別セッションを活用の方は、以下までご連絡下さい。

申請・問い合わせ先：hisashi@okayama-u.ac.jp 駄田井久（岡山大学）企画担当理事

※ 8月6日（火）までに、上記申請先に、テーマ・座長・登壇者をお知らせください。

国際ミニシンポジウムと同時刻の開催になりますので、ご注意ください

5. 地域シンポジウム

「豊川用水と地域農林業—現状と今後の展望」

10月27日（日）[13:30~16:00]

豊川用水は、昭和43年の全面通水から東三河地域に農業用水を安定的に供給してきた。この間、豊川上流域の中山間地域では、農林業の衰退や過疎化・高齢化などの問題に直面する一方、豊川下流域では、全国有数の園芸産地として目覚ましい発展を遂げるなど、地域の様相には大きな相違がある。

そこで、本シンポジウムでは、豊川用水通水後50年を経過した現在、豊川用水と地域の関わりおよび上流域、下流域それぞれの地域における農林業の現状に対する理解を深めるとともに、今後の展望を検討していきたい（共催：愛知大学中部地方産業研究所）。

座長 岩崎正弥（愛知大学教授地域政策学部）

第1報告：「豊川用水の地域発展への貢献と今後の展望」（仮）

細山田真（水資源機構豊川用水総合事業部）

第2報告：「愛知県渥美半島（田原市）におけるキク電照栽培の発展過程と課題」（仮）

山内高弘（豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター）

第3報告：「根羽村におけるトータル林業」（仮）

今村豊（根羽村森林組合）
コメンテーター：辻村英之（京都大学大学院農学研究科）

6. 個別報告

10月26日（土）[9:00～13:00]（個別報告優秀賞対象報告を含みます。）

個別報告優秀賞の受賞者は10月26日、13時30分ごろに受付にて公表します。

受賞者の表彰は、当日16:45からの総会で行います。

10月27日（日） [9:00～10:30 16:00～17:00]（終了時刻は変更することがあります。）

1. 報告は1件につき、30分（報告20分、質疑応答10分）を予定しています。
2. 同一筆頭報告者による報告は一報告に限ります。
3. 個別報告の申し込み方法、プレゼンテーション用ファイル（PDF）の送付、個別報告論文投稿等については、【別紙】の1・2を参照してください。
4. 個別報告優秀賞は、大会時点（2019年10月26日時点）で37歳未満の若手会員が対象です。個別報告優秀賞応募の方法については、【別紙】の3を参照してください。

7. その他連絡事項

(1) 宿泊について

事務局では斡旋いたしません。各自でご予約ください。

(2) 昼食について

10月26日（土）はキャンパス内の生協購買部（営業時間11:00～13:45）、食堂（営業時間11:45～13:45：ラストオーダー）が営業していますが、27日（日）は営業していません。そこで、希望者には、27日（日）に弁当の販売（1,000円お茶付きの予定）を行います。ただし、弁当の申し込みは、webからの事前予約のみとさせていただきます。

(3) 大会期間中の保育／託児室設置について

お子様同伴で参加を予定される方のために、有償で利用可能な保育室の設置を予定しています。保育室の利用をご希望の方は、必ず9月13日（金）までに、下記の申し込み先へお子様の年齢・人数と利用日時をお知らせいただいております。事前申し込みがあった場合にのみ、保育室と保育係を準備いたします。なお、個人負担額は1日：5000円、半日3000円です。

申し込み先：開催校事務局 山口治子（yamaguti@aichi-u.ac.jp）

(4) 愛知大学・豊橋キャンパスへの交通手段について

会場へのアクセスについては愛知大学HPのアクセス情報（豊橋キャンパス）をご参照ください。

<http://www.aichi-u.ac.jp/guide/access#b-407289>

「豊橋」駅より豊橋鉄道渥美線「新豊橋」駅乗り換え「愛知大学前」駅隣接

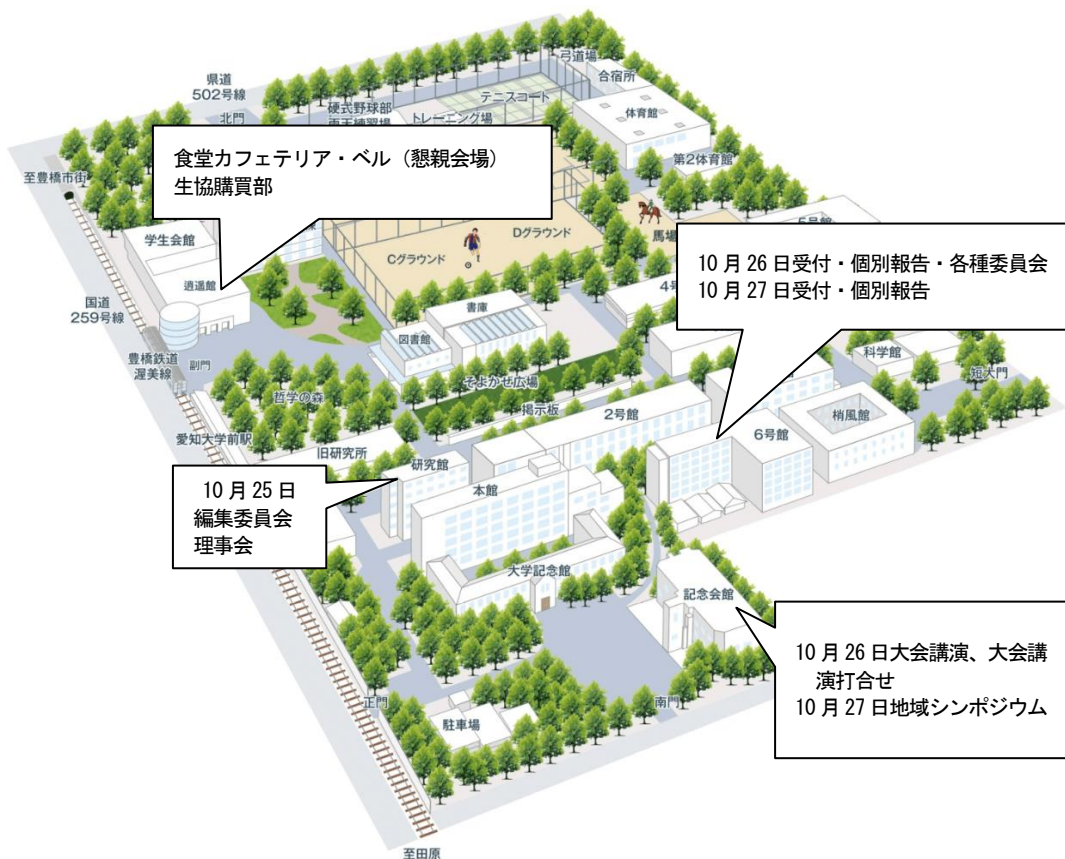
（新豊橋駅より所要時間約6分）

キャンパス内の駐車場は原則として利用できませんので、公共交通機関でお越し下さい。

○愛知大学・豊橋キャンパスの位置



○キャンパス内マップ



【別紙】

各申し込みの先の URL・提出期限および連絡先一覧

個別報告申し込みおよび要旨提出（締め切り日時：8/13（火）23:00）

URL: <https://business.form-mailer.jp/fms/331d723232976>

パスワード【20190813】

個別報告で用いるプレゼンファイルの提出（締め切り日時：10/21（月）23:00）

登録 URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/1d394ab732977>

パスワード【20191021】

個別報告「大会前原稿」の提出（締め切り日時：10/21（月）23:00）

登録 URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>

パスワード【20191021】

個別報告申し込み、プレゼン用ファイル提出、個別報告優秀賞応募に関する問い合わせ先

arfe-plan@freeml.com 地域農林経済学会企画担当理事

個別報告「大会前提出原稿」に関する問い合わせ先

editors@a-rafe.org 地域農林経済学会常任編集委員会

1. 個別報告の要旨原稿の様式・申し込み方法、プレゼンテーション用ファイルの送付等に関して

(1) 個別報告の要旨原稿の様式

1. 要旨原稿のフォーマットは、本学会HP (<http://a-rafe.org/>) の「学会誌」にある個別報告要旨様式（作成要領・見本）を参照して下さい。
2. 要旨原稿は、ワープロで作成したファイルを、必ずPDFファイルに変換して下さい（A4サイズ、1枚）。

ファイル名は、下記の事例を参照して下さい。

例) (単独の場合) ○○大学・農経花子.pdf

(複数の場合) ○○大学・農経花子他.pdf

また、所属機関の書き方は、下記の事例を参照して下さい。

例) (社会人の場合) ○○大学, ○○研究所

(大学院生の場合) ○○大学大学院

(学部学生の場合) ○○大学△△学部

(日本学術振興会特別研究員の場合) 学振特別研究員・○○大学

個別報告要旨は学会HP にアップし、大会期間中は受付場所で閲覧できるようにしておきます。

(2) 個別報告の申し込み方法

1. 申し込みおよび要旨原稿ファイル（PDFファイル）の提出は、webで行ってください。
2. フォームの「IX個別報告要旨のファイル（PDF形式に限る）を添付してください。」の欄では、参照のボタンをマウスでクリックし、要旨原稿ファイルを選択して下さい。
3. 「送信する」のボタンを押した後、返信メールが、連絡先メールアドレスに送られる仕組み

なっています。数時間たっても連絡先メールアドレスに、受付完了のメールが届かない場合には、再度申請をお願いいたします。

4. 「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」入力に関する質問は、電話では一切受け付けていません。また、入力ミスへの修正対応はできません。
5. 筆頭報告者には、会員の資格が必要です。非会員の方には、入会手続きをお願いいたします。個別報告の申込期限（8月13日（火））までに、入会金と年会費の納入が必要です。詳細は、地域農林経済学会 HP を参照ください。

(3) 個別報告で使用するプレゼンテーション用ファイル（PDF）の送付について

1. 個別報告でPDFファイルをプレゼンテーションに使用する場合

★プレゼンファイルは、PDFのみです。PowerPointファイルは使用できません。

- ① 個別報告会場に備え付けのプロジェクターとPC（OSは、Windows10）で報告していただけます。持ち込みPC、タブレット、OHP等は利用できません。
- ② PDF用ソフトは、Adobe Acrobat DC (Ver2018.009.20044)です。PDFファイルを使用する場合であっても、紙媒体の配布資料も用意することが望ましいです。
- ③ PDFファイルのプレゼンテーション用原稿は、10月21日（月）23時までに、webで提出してください。締切り以降は受け付けません。また、当日のファイルの差し替え等も受け付けません。

会場でのPC使用の便宜のため、PDFファイルには、下記のように名前を付けておいてください。

例) 報告者が、個別報告優秀賞に応募で、第1会場の第1報告の場合

(単独の場合) 特0101・農経花子.pdf

(複数の場合) 特0101・農経花子他.pdf

報告者が、一般報告に応募で、第3会場の第6報告の場合

(単独の場合) 0306・農経花子.pdf

(複数の場合) 0306・農経花子他.pdf

- ④ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するような工夫をしてください。

2. 個別報告で紙媒体を用いる場合

従来通り、聴講者数分の部数を用意して、当日報告会場に持参してください（事務局では印刷は行いません）。

2. 個別報告論文としての投稿に関して

※詳細な投稿方法や原稿作成要領等については、学会 HP を随時参照してください。

1. 「地域農林経済学会大会個別報告論文投稿要領」（学会 HP に掲載、以下、個別報告論文投稿要領と略す）の2にしたがって、「大会前提出原稿」を作成し、10月21日（月）23時までに（郵送の場合は消印有効）、個別報告座長宛てに1部送付（メールまたは郵送）して下さい。個別報告座長については、学会 HP で確認してください（9月中頃掲載予定）。「大会前提出原稿」を作成する際には、学会 HP に掲載されている「個別報告論文テンプレート」を用いる必要があります。

- 2 併せて、「大会前提出原稿」は、10月21日（月）23時までに、インターネット経由で提出してください（PDFファイルに変換のこと）。
3. 当該URLは、<<https://business.form-mailer.jp/fms/f8970ece32990>>です。パスワードを聞いてきますので、「20191021」と入力してください。
(当該パスワードは、極めて重要ですので、くれぐれも管理にご注意下さい。)
なお、本学会HPの「研究大会」－「個別報告申し込み要項」からも上記URLにリンクしていますので、そこから利用して頂くことも出来ます。
4. PDFファイルには、下記のように名前を付けておいてください。
例) 報告者が、個別報告優秀賞に応募で、第1会場の第1報告の場合
 (単独の場合) 特0101・農経花子.pdf
 (複数の場合) 特0101・農経花子他.pdf
報告者が、一般報告で、第3会場の第6報告の場合
 (単独の場合) 0306・農経花子.pdf
 (複数の場合) 0306・農経花子他.pdf
5. ファイルの容量の上限は、3MBです。3MBを超えるファイルは、受け付けることができませんので、図や写真を圧縮するような工夫をして下さい。
6. 大会終了後に提出して頂くことになる個別報告論文の投稿方法・締め切り等については、大会前に常任編集委員会から投稿案内がメールにて送付される予定です(本学会HPでも告知します)。個別報告論文の書き方・提出方法等については、本学会HPに掲載される「個別報告論文テンプレートファイル」および「個別報告論文投稿要領」に従ってください。
7. 連名報告での報告者の順位と、個別報告論文での執筆者の順位は、同じでなければなりませんので、ご注意ください。

3. 個別報告優秀賞の応募方法について

個別報告優秀賞に応募される方は、「大会前提出原稿」の提出が必須です。「大会前提出原稿」の提出がない場合には、審査の対象になりません。

個別報告を申し込まれる際に、「地域農林経済学会個別報告申請フォーム」の以下の3項目に必要事項を記入し送信してください。

- ▶ 【Ⅷ個別報告優秀賞への応募を希望しますか?】
- ▶ 【「はい」と希望した場合には、2019年10月26日時点での筆頭報告者の年齢を入力してください。】
- ▶ 【今回の応募は、研究論文等として投稿中の研究ではありませんね?】

なお、個別報告優秀賞への応募できるのは、2019年10月26日時点での筆頭報告者の年齢が37歳未満の場合です。また、すでに研究論文等として投稿中の研究は応募できません。ご注意ください。